

日本薬剤師会学校薬剤師部会 学校薬剤師学術フォーラムに参加して

千葉県学校薬剤師会
副会長 大野 定行

令和元年7月28日(日)フクラシア品川クリスタルスクエア(東京都港区)にて、学校薬剤師学術フォーラムが開催されました。前日まで台風の影響で開催が危ぶまれていましたが、無事開催されました。全国から約200名の参加があり会場は満席でした。

【講義Ⅰ】「学校環境衛生マニュアルでつたえたいこと」#

文部科学省 初等中等教育局健康教育・食育課 健康教育調査官 小出 彰宏氏#

学校環境衛生検査が433%実施されていない現状と今後の課題についての講演でした。検査が433(実施できない理由として①教育委員会の検査に対する理解・認識不足②学校薬剤師の検査に対する理解・認識不足③学校薬剤師の人材不足があげられる。といわれ①については国の立場で理解を求めていくので②③は薬剤師会として努力していただきたい。と話されました。#

また、学校設置者、学校、学校薬剤師それぞれが協力し合っこそ学校の安全が守られることなので学校保健会などに積極的に参加していただきたいと話されました。#

最後に、学校給食についても学校薬剤師の関与が必要であるので積極的に関与してほしいと要望されました。#

#

【講義Ⅱ】「がん教育について」#

日本学校保健会 専務理事 弓倉 整氏#

がん対策推進基本計画(平成57年9月)において、「子どもに対しては、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつよう教育することを目指し、8年以内に、学校での教育の在り方を含め、健康教育全体の中で「がん」教育をどのようにするべきか検討し、検討結果に基づく教育活動の実施を目標にする」と提言されました。国からの方針に基づき文部科学省では「がん教育」の在り方に関する検討会を立ち上げ、外部講師を用いたがん教育ガイドラインに基づいて、補助教材を作成しており、小学校、中学校、高等学校に沿った内容でダウンロードすることができるので是非活用してほしいと話されました。#

#

#

#

【講義Ⅲ】「学校環境衛生検査に用いる測定機器について」#

日本薬剤師会学校薬剤師部会幹事 木全 勝彦氏#

学校環境衛生基準で行わなければならない検査項目についての説明と測定器の概要や方法についての説明がありました。また、機器は、定期的に校正をする必要であるので、機器を一度に購入せずに年度を分けるなどの方法なども検討する方がいいと話されました。#

冷房時の注意点として、窓を閉め切ったまま授業が行われることにより二酸化炭素濃度が基準を大幅に超えることがあるので、エアコン使用時は適切な換気を実施するよう指導助言をおこなうことを忘れないようにしてほしいとも話されました。#

#

(発表Ⅰ「認定こども園での学校薬剤師会活動を始めてみて」)#

岩手県薬剤師会学校薬剤師部会幹事 大坪 尚子氏#

昨年度から、ご自身が担当している認定こども園4園の活動について述べられました。小学校、中学校と違い、空気検査では、遊びまわっている園児の中での検査の難しさや57時間換気システムなどで窓を開けなくても良いと思っていた園があった。照度については黒板がない、教室の広さがまちまち、目線の高さが大人と違うなど検査内容をそれぞれのこども園にあった方法で行っているとの報告がありました。#

また、個々のこども園特有な衛生環境があり今後の課題でもあると話されていました。#

#

(発表Ⅱ「衛生害虫からみる学校給食室の衛生管理」)#

東京都学校薬剤師会 副会長 井戸 久夫氏#

東京都学校薬剤師会が平成 59年 63 年に実施した学校給食施設のゴキブリ調査結果について報告がありました。64校 494回調査し総捕獲数 88;7匹、4回の平均捕獲数約 68匹、# 4回の調査での最大捕獲数 875匹という結果でした。また成虫と幼虫の捕獲割合は 54(、 :<と幼虫が多く、月別では :月の捕獲数が多いという結果でした。45校では捕獲数が減少したが、変わらなかった学校 4:校、増加した学校 5校という結果も示されました。#

これらの結果から、ゴキブリ駆除には :月に成虫と卵鞘をしっかりと駆除することと学校関係者の衛生害虫管理に高い意識を持つことがゴキブリ駆除のポイントであると話されていました。#

#

43時から49時までと長時間でありましたが、内容はとても面白く役に立つ内容でした。学校薬剤師として、今後の業務に活かしていきたいと思います。#

#

#